

山武市景観計画

第1回策定委員会 配布資料

【山武市景観計画について】

山武市景観計画策定の目的	1
山武市景観計画の位置づけ	1
これまでの取り組み経緯	2～3
山武市景観計画策定の進め方とスケジュール（予定）	4
山武市の成り立ち	5

平成25年7月

山武市景観計画策定の目的

山武市は、日本の白砂青松 100 選と日本の渚百選に選定されている九十九里浜、豊かな緑に覆われた丘陵地、屋敷林に囲まれた集落地と田畑が調和した田園及び商業や住宅地からなる市街地といった多様な景観を有しています。

また、市内各所において、花や桜の植栽・管理、公園の管理、里山保全など景観に関する市民活動も活発となっており、市民の景観に対する機運も高まっています。

これら、緑と歴史が織りなす景観は、まちの記憶であり、市民に落ち着きやゆとり、地域への誇りを感じさせる市民の大きな財産です。

しかしながら、これらは先人が守り育ててきたものであり、後世に引き継ぐことは市民の責務ですが、市民の価値観や生活様式の多様化により、個人の努力のみで景観を守り育てることは容易ではなくなってきています。

こうしたことから、景観について考え、取り組むことが必要な時期に来ており、本市における景観づくりの考え方を明らかにし、その実現に向けて市民・事業者と行政が協働して取り組む指針として、景観法に基づく景観計画を策定するものです。

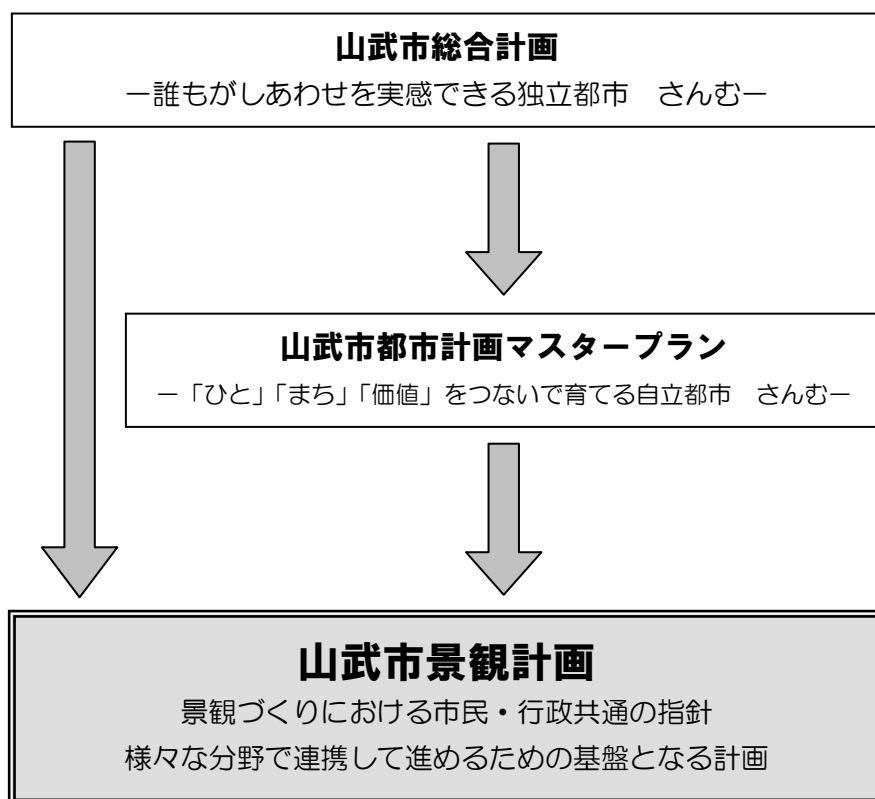


山武市景観計画の位置づけ

山武市の景観計画は、山武市総合計画に掲げる「ともに手を携えて誇りを持てるまちづくり」の基本理念のもと、「誰もがしあわせを実感できる独立都市 さんむ」の将来都市像実現のため、市民・事業者・行政の協働による景観施策の根本的な計画として位置づけます。

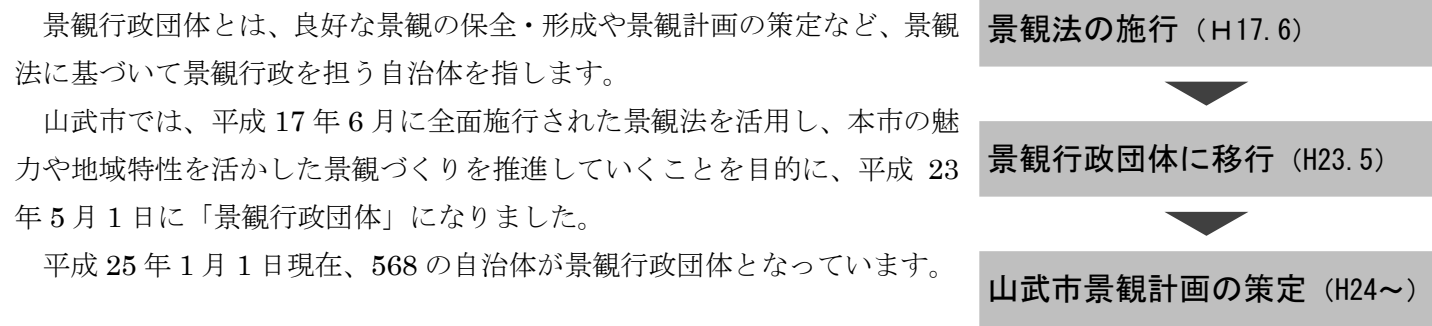
なお、本計画は、景観法第 8 条 1 項に規定される景観計画であり、山武市都市計画マスタープランとの整合を図りながら、景観法に規定する必要な事項を定めることとします。

＜山武市景観計画の位置づけ＞



これまでの取り組み経緯

～ 景観行政団体への移行 ～



これまでの取り組み経緯

～ 景観セミナーの開催 ～

平成 2 2 年 7 月 2 5 日（日）に、千葉県及び山武市（協力：景観まちづくりフォーラム千葉協議会）により景観セミナーを開催しました。

これは、広く県民及び事業者の景観づくりへの参加意欲の醸成をはかり、地域の良好な景観の形成に向けた取り組みがより積極的に行われることを目的として開催したものです。

開催内容	第一部 講演 テーマ：「私たちの暮らしと景観」 講師：北原理雄 氏（千葉大学大学院工学研究科 教授） 第二部 座談会 テーマ：「地域の宝を磨く」 座長：北原理雄 氏（千葉大学大学院工学研究科 教授） 出演者：椎名千収 氏（山武市長）、稗田忠弘 氏（さんむフォレスト代表）、山口浩 氏（山武市都市建設部都市整備課長）
講演概要	◆景観とは何か ・「景観」の意味、「景観」という漢字の成り立ち ◆なぜ、景観づくりをするのか ・私たちは、それと知らずに環境を変えている ・人の健康が顔に表れるように、環境の健康は“景観”に表れる ・景観に注意を払い、それを大切にすることは、地域の環境の質を高めることにつながる ◆山武は宝の山 ・宝を活かすには…宝に気づく、宝を磨く、宝をつなぐ ・景観と観光は、どのような関係があるのか ◆まとめ ・景観は、人と環境のインターフェイス（人と環境を結び合わせる役割を果たすもの） ・景観を糸口に、総合的な環境の質を豊かにできる ・宝は身近なところにある。そして磨けば光る。でも腐らせていることの方が多い？



これまでの取り組み経緯

～ 景観まちづくりフォーラムの開催 ～

平成 2 3 年 2 月 2 7 日（日）に、NPO 法人ちば市民活動・市民事業サポート倶楽部（共催：景観まちづくり千葉協議会・千葉県、後援：山武市）及び山武市（協力：景観まちづくりフォーラム千葉協議会）により景観セミナーを開催しました。

これは、山武市早船の緑ゆたかな里山を散策し、里山や景観の大切さと保全、再生、活用などについて考えることを目的として開催したものです。

開催内容	◆講演 ・「里山をみんなの癒しの場所に」 早船里山の会 實川会長 ・「さんむの自然の保全、活用をめざして」 NPO 法人さんむ環連協 岩瀬代表 ・「山武杉を使い切るくらし」 さんむフォレスト 稗田代表 ◆グループディスカッション テーマ「山武の里山のここがイイ、こんなことができれば」 5 グループに別れディスカッション、結果発表
講演概要	◆「里山をみんなの癒しの場所に」 早船里山の会 實川会長 ・地元の人やボランティアで里山整備を行い、5 年間で今の状況にした。 ・今後の早船里山の展望としては、5 つのテーマを掲げている。（癒しのできる里山、人と人とのふれあい、繋がりのある里山、きれいな水、きれいな空気） ・今後の活動の課題は、ボランティアの高齢化、真夏の草刈等（機械化の導入をしたいが資金不足である）が挙げられる。 ・これからの里山の進め方としては、教育の森として、また、観光名所として活用する。 ◆「さんむの自然の保全、活用をめざして」 NPO 法人さんむ環連協 岩瀬代表 ・さんむ環連協では、樹木の全伐、枝打ち、植栽等を行っている。土地所有者等と協定を結び、沖渡・戸田などを中心に活動を行っている。溝腐病の被害林 973ha のうち、6ha を管理している。 ・メンバーに土地所有者はおらず、素人ばかりの集まりで山武市出身者よりも市外・県外出身者が多い。 ・活動の課題としては、会員の高齢化が挙げられる。 ・山武杉の溝腐病、ごみの不法投棄等が景観を破壊する一因となっている。 ・里山保全の活動が、地域の良好な景観につながればと思っている。 ◆「山武杉を使い切るくらし」 さんむフォレスト 稗田代表 ・市場では価値のない溝腐病の木材も、階段等に使用できる（立派な資源になる） ・エアコンなしでの暮らしができるよう建物を設計（重力換気法による） ・人から人への技能伝承、地域文化としての技能が重要 ・薪ストーブ 1 台で、ハイブリット車 5 台分に換算できる。
北原教授のまとめ	・山武市はすばらしい里山を持っている。 ・ほどよい里山がいい（手入れが行き届いている。やりすぎでない） →このままありつづけてもらいたい。 ・キーワードは持続 ほどよい負担、ほどよい持続性 ・持続 ⇄ 交流（連携）を深める



これまでの取り組み経緯

さんむの魅力フォトコンテストの開催

景観に関する意識啓発を目的として、市民が美しいと思った風景、山武市らしさを感じる風景、未来に残したいと思った風景等の写真を募集するフォトコンテストを開催しました。

平成２３年に実施した「第１回さんむの魅力フォトコンテスト」では、“美しいと思った風景、山武市らしさを感じる風景、未来に残したいと思った風景”をテーマに写真を募集しました。

平成２４年に実施した「第２回さんむの魅力フォトコンテスト」では、“みんなに伝えたい「さんむの景観資産」”をテーマに写真を募集しました。

第１回：美しいと思った風景、山武市らしさを感じる風景、未来に残したいと思った風景



第２回：みんなに伝えたい「さんむの景観資産」



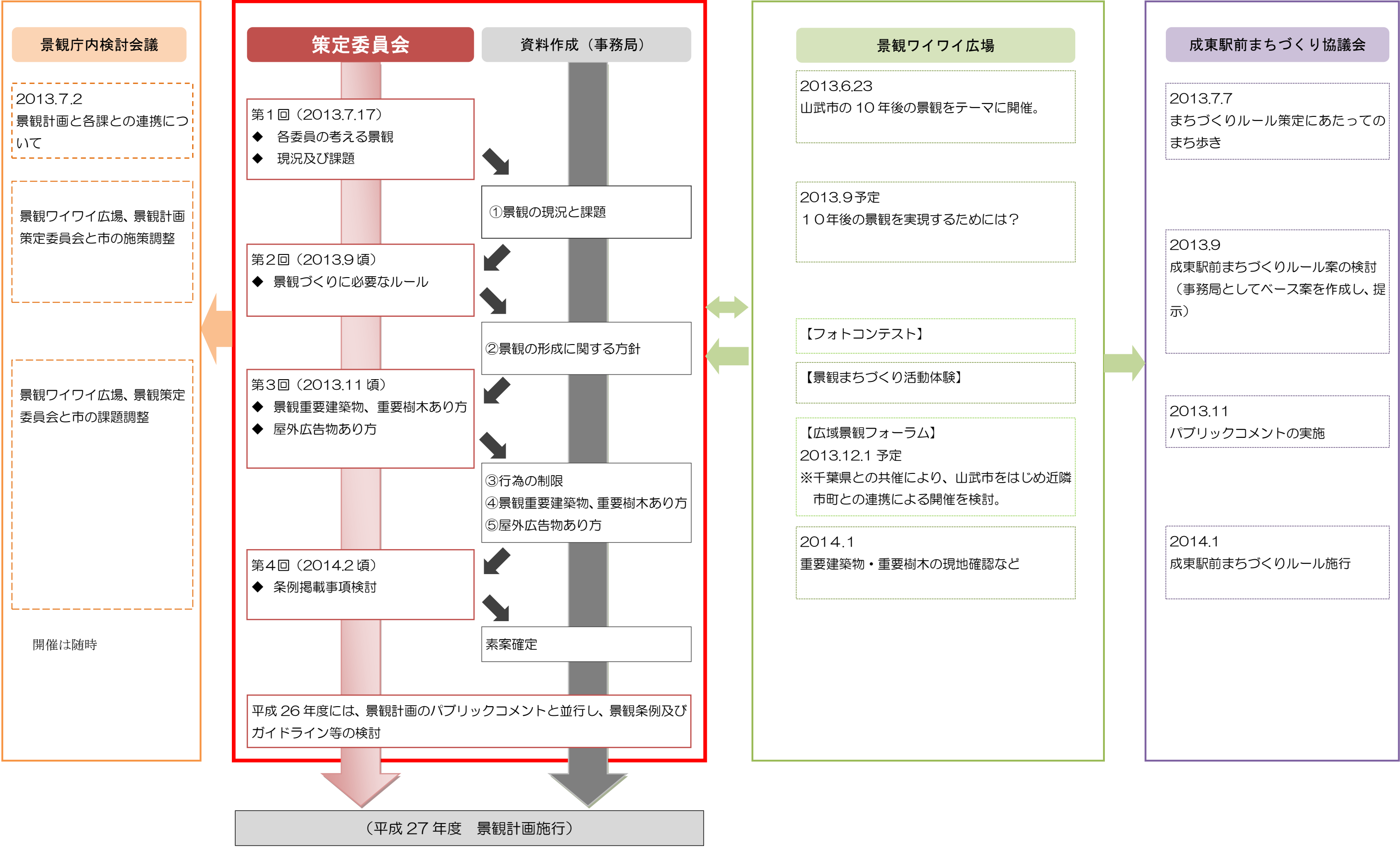
これまでの取り組み経緯

景観ワイワイ広場の開催

景観まちづくり市民懇談会（景観ワイワイ広場）は、景観計画策定にあたって市民の意向を反映し、市民と行政が役割を担いながら、ともに景観づくりに参加することを目的として開催するものです。

回数	開催テーマ
第１回景観ワイワイ広場 平成 24 年 9 月 30 日（日） 参加人数：8 名	テーマ：山武市の「好きな景観」「何とかしたい景観」を考えてみよう！  
第２回景観ワイワイ広場 平成 25 年 2 月 3 日（日） 参加人数：20 名	テーマ：歩いて確かめよう！さんむの良い景観  
第３回景観ワイワイ広場 平成 25 年 6 月 23 日（日） 参加人数：20 名	テーマ：山武市の「10 年後の景観」を考えよう！     

山武市景観計画策定の進め方とスケジュール（予定）



＜市の歴史＞

【旧石器～古墳時代】

- 約 6000 年前の海面は現在と比べて高く、浪切不動院のある石塚山には波に削られた痕跡が残されているように、その海岸線は現在よりもかなり内陸部にあったと考えられています。
- その後、弥生時代から古墳時代にかけて今の海岸線あたりまで陸地化される中で、九十九里平野と共に湯板上池や宮前池等のため池が出来たものと言われています。
- 古墳時代になると、地域に勢力を伸ばす豪族により古墳が数多く築かれ、現在市内には 500 基以上の古墳が存在します。
- 律令国家が成立すると、本市は山辺郡や武射郡に組み込まれ、奈良時代には武射郡寺である真行寺が建立されました。

【中世～江戸時代】

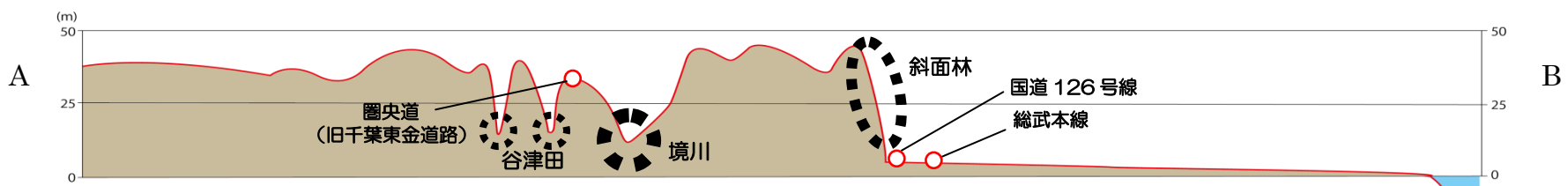
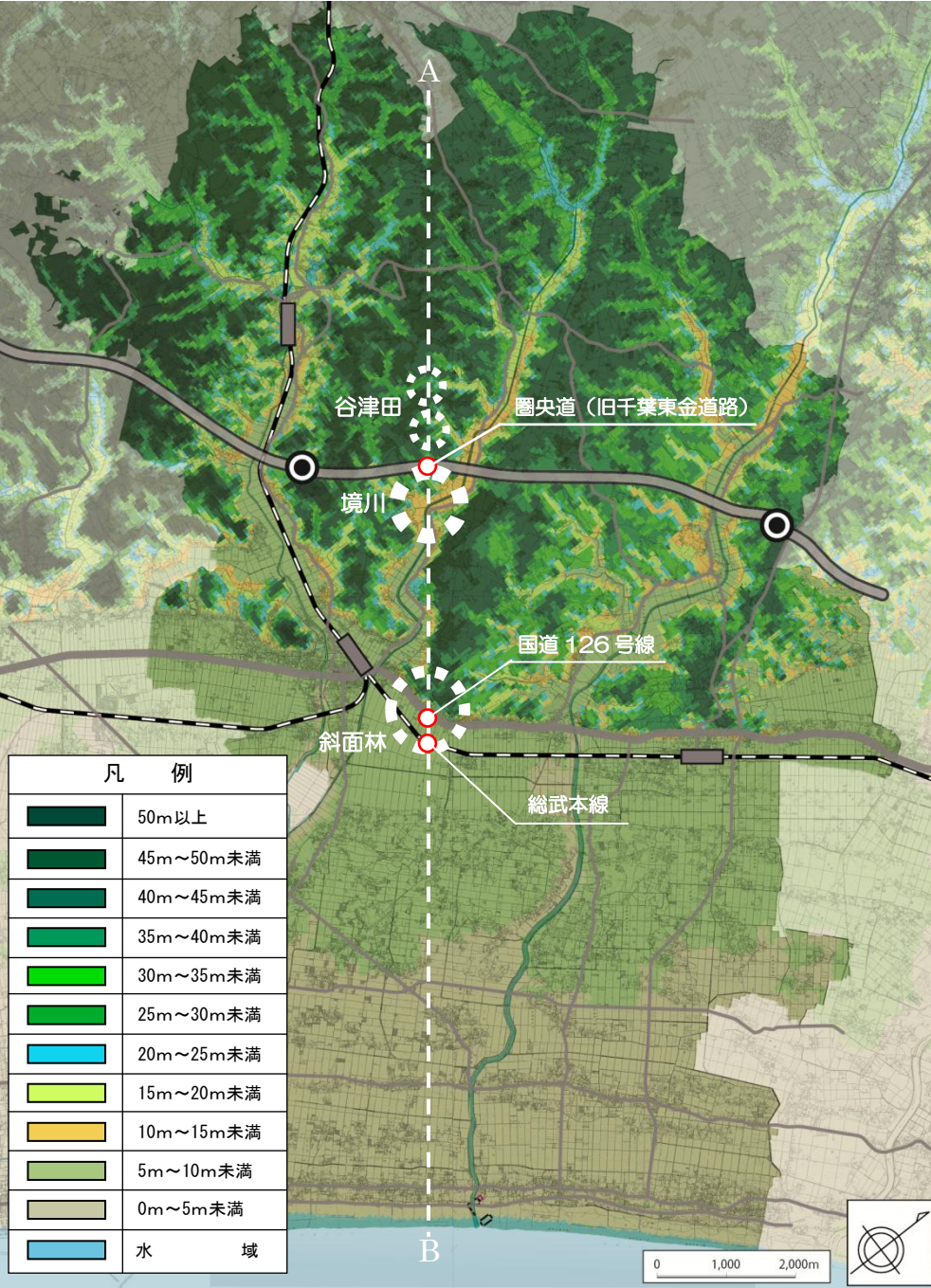
- 鎌倉時代から室町時代にかけては、有力武士の支配の下、成東城や山室城が築造されました。現在では成東城跡公園や山室城跡に空堀等の遺構を見ることができます。
- 17 世紀後半に九十九里浜で地引網が普及し、イワシ漁等が盛況を極め、イワシ漁に用いる材木として植林されたのが山武杉の始まりと言われ、多く植林されるようになりました。
- 大橋の架け替えを機に農民の間に上総道学が普及しました。現在も河川堤には「上総道学発祥の地」の記念碑が建立されているほか、貢献者の墓が成東地区に残されています。
- 元禄 16 年には、地震による元禄大津波が九十九里浜一帯を襲い、犠牲者を供養する百人塚、千人塚が本須賀、松ヶ谷に残るほか、蓮花寺にも千人塚・八十八石仏が建立されました。

【明治期～現代】

- 明治 2 年には掛川藩主太田氏により松尾城が築城され、現在も松尾中学校の外周部にはある「胸壁」を始め、知事邸跡や旧松尾藩主居宅の長屋門が残されています。
- 明治 9 年に草深出身の牧野萬右衛門により落花生の栽培が始められ、県内に広められていました。市内においては、丘陵地域を中心に多くの落花生畑があります。
- 明治 30 年に成東駅が開業し、地域の発展に大きく寄与しました。また、この頃文学や短歌において活躍した伊藤左千夫の生家が殿台に残るほか、市内各所に歌碑が残されています。
- 昭和 30 年前後の昭和合併により、本地域は成東町・松尾町・山武町・蓮沼村の 3 町 1 村に編成されました。
- 昭和 53 年の成田空港の開港を受け、昭和 61 年には成田松尾線が開通し、平成 10 年には首都圏中央連絡自動車道の一部となる千葉東金道路が延伸されました。
- 近年では、住宅・商業・工業等の立地が進展し、平成 18 年 3 月には蓮沼村・松尾町・山武町・成東町の 4 町村が合併し現在の山武市となりました。

民家に移築された
松尾藩主居宅の長屋門

本市の地形は、国道 126 号線付近を境に台地と低地に分かれており、その境界は崖となっています。台地部では、河川により浸食された谷底平野が、主に河川の南側に分岐して広がっています。A—B の断面図からは、概ね 40m 前後の台地部と、崖を境として海まで広がる 10m 以下の低地部といった高低差のある地形が伺えます。



明治 17 年に陸軍が作成した「迅速測図」で成東駅周辺を見ると、総武本線や東金市に近い国道 126 号線の辺りは田園風景であったこと(①)や、早船等の旧道 126 号線沿いの集落は明治初期には既に形成されている(②)一方で、成東駅周辺の市街地はこれ以降に形成された(③)新しいものである等、市街化の変遷が伺えます。

